

【報告者】鈴木 恵美子

【学年】 2年

【教科・単元名】算数：聴暗算 ループ計算カードを使って

計算単元の導入(ウォーミングアップ)や三の丸タイムなど計算の日常化として

- カードの作り方：
1. 番号の順に作業を行う
 2. 狭いスペースは、計算の答え
広いスペースは、計算問題
 3. 太い線で切り分けて使用する

注：同じ答えにならない問題を作る

ひとつ下の学年の内容ぐらいがよい

の答え

の答え

例：

$$3 + 8$$

の答え

の答え

使い方：1．一人に 1枚ずつ配布する。

2．スタートの人を決め、その人が持っているカードの問題を読み上げる。

3．その答えの書いてあるカードを持っている人が、答えを言い、そのカードに書いてある問題を読み上げる。

4．以下同様に進め、スタートの人のカードに書いてある答えにたどり着いたら終わり。

良いところは、1．フラッシュカード以上に自分以外の問題に参加する。

2．グループや隣同士と一緒に考える事も可能。

3．初めは、かなり時間がかかるが、タイムをとることで集中力、意欲が増す。

4．計算だけでなく、「三角形は、何本の直線で囲まれているか
センチメートルは、何ミリメートルか？」などの問題でもできる。

？」「1セ

【反省】

手にしたカードには、問題と別の答えが表記してあるので、目から入る刺激が多すぎた。そこで、集中力やスピードを考えるとカードの改良の余地がある。改良版は、問題の裏にセットになっている答えを書くことにした。

カードは、必ず机の上におき、暗算に集中できるようにする。(低学年の場合)

みんなが聞こえる声でリズムよくいくと楽しさは倍増する。単発で終わらせず、日常化していくことで「楽しさを味わう」まで高められる。授業の初めか終わりには、必ず取り入れられるようにしていきたい。35人ぐらいで2分以内に終わるようになると毎日でも続けていく事が可能であろう。